

基地も原発もいらぬ！8・15アクション——未来へつなぐ みんなでつながる

垣内成子

八月一五日敗戦の日に、かの大戦で奪われた多くの魂に祈りを捧げ、未来の子どもたちに平和をつなぐ想いを込めて、基地や原発周辺をはじめ全国各地で「反基地」「脱原発」のメッセージを発するプロジェクトを立ち上げました。同日の共同行動を呼び掛けます。

2プラス2の欺瞞と、オスプレイの配備 六月二一日に発表された2プラス2（日米安全保障協議委員会共同発表）は、辺野古への新基地建設を

自公政権時代の「V字案」に回帰、さらに馬毛島（鹿児島県）や下地島問題など、民意を汲むことなく日米両政府が勝手に合意しています。さらには、オスプレイの沖縄配備が明らかに……これらの報道に接したとき私は、いまだに治外法権が許され、五〇年以上も植民地の様相を呈する「日米地位協定」を想起し、怒りに震えました。

経済発展を阻むのは基地 「沖縄経済は基地がなければ成り立たない」という誤った見方が本土に浸透させられています。沖縄の実態を繰り返し説き、粘り強く誤解を取り除く必要があります。沖縄県の統計によれば、復帰時点で一五・五%だった基地関連収入が年々減少し、〇七年では五・三%に過ぎません。県土の一〇・二%を占める基地からの還元がその半分というのが現実なのです。

基地も原発も問題の根っこは同じ 原発を過疎地に押し付けながら、その電力は地元ではなく東京などの大都会で消費する……人口一%の沖縄県に七五%の米軍基地を集中させているのと同じ構造ではないでしょうか。「国策」という名の押し付けにより、一部地域の平穏な日常生活が奪われ、豊かな自然環境が破壊されているのは、基地も原発も同じです。

「国策」の名のもとに地方自治体の財政や雇用を縛り付け、一部のメディアや専門家が世論を誘導し、国民とかけ離れたところで利益の享受がなされているために、これまでの「反基地」「脱原発」運動はその声をかき消される一方でした。

未来へつなぐ みんなでつながる 不幸にも福島原発人災が引き起こされたことで、国民不在の国策の構造が明るみに出ました。もはや人ごとではなく、すべての国民の問題であると、多くの方が感じていることでしょう。今こそ、団結した民意の力で、国政を変えていくべきときではないでしょうか。

「基地も原発もいらぬ！どこにも!!」のメッセージを掲げて、全国各地で同時多発的なアクションを起こしましょう！

「バルーン大作戦」ではカンパを募っています。皆様からお寄せいただいたカンパを原資に、来る八月一五日に沖縄・恩納村で横断幕とアドバルーンを揚げます。福島をはじめとした原発や基地周辺でもアドバルーンや風船を揚げる予定です。

基地が原発がある限り、真の平和は訪れません。未来の子どもたちに平和な明日をつなぐために、みんなですつながりましょう！

【カンパの振込先】

郵便振替口座 00170・3・6080009

加入者名：「ルート58バルーン大作戦」

*アクションでは、環境負荷を軽減するため、天然ゴム風船・タコ糸のご使用をおすすめするともに、お持ち帰りまたは回収をお願いします。

（かきうち・しげこ／「市民の意見30の会・東京」会員）